

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_a_Bs	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックカレッジ科	コース名	プレイヤーコース（ベース専攻）	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	上野 一郎		実務経験の有無・職種	有・プロベーシスト	
学習目的					
この科目を受講する学生は、ベーシストとしての基礎を固めると同時に、音楽をより深く理解し,イメージを持って演奏出来るようになることを目指す。ダイアトニックコードスケールや他のスケールを徹底的に反復練習を行い習得する。 またフィンガリングトレーニングやコード分散和音など基礎的な技術・知識を習得し、アンサンブルにおける正確なリズム、フレーズを提供できるようにトレーニングする。オリジナル楽曲でのベースライン構築を行えるように基礎技術と基礎知識を身に付けることを目的とする。					
到達目標					
ベーシストとしての基礎をしっかりと身に付けること。1年次修了ライブでのオリジナル楽曲のベースラインを作成し弾くことを目標とする。 また基礎知識・基礎技術を身に付け、多ジャンルの楽曲に対応できるようにする。 ジャンルに分かれたベースラインを分析しその機能を理解し、自分の中でのベースラインのアイデアを蓄積することもプロフェッショナルとして必要である。 そのためにも基礎技術、知識を徹底的に習得することも目標の1つとする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、基本的なリズムやビートなどのベーシストにとって重要な概念の理解とその演奏能力の向上、音楽理論の基礎概念の理解を中心に授業を進める。 フィンガリングトレーニング、スケール、コード構成音、トラディショナルチューンの譜読み等フィジカル・メカニカルなトレーニングが主となり楽器自体をコントロールできるようなレッスンを行っていく。				
注意点	この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。 配布資料・譜面は毎回持参、毎回行ったレッスン内容の反復練習を欠かさず行う事。 特にフィンガートレーニングは毎日の日課にするよう行っていく事。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	リズムの概念		ダウンビート、アップビートの概念の理解		
2回	リズムトレーニング①		8分音符のシンコペーションの理解。ベースラインの構成について		
3回	リズムトレーニング②		ビート感覚をしっかりと感じながら演奏する		
4回	楽曲フォームの概念理解		全体のベースライン構成を把握しながら演奏する		
5回	パルスの理解とトレーニング		8分音符のオモテ、ウラの感覚をしっかりと感じること		
6回	ビートパターンの理解		エイトビートの理解		
7回	ビートパターントレーニング①		8分音符のウラをしっかりと感じて演奏する		
8回	ビートパターントレーニング②		エイトビートの感覚をしっかりと感じて演奏する		
9回	音楽理論とベースラインについて①		ダイアトニックコードの理解1 メジャーダイアトニックコードを理解する		
10回	音楽理論とベースラインについて②		ダイアトニックコードの理解2 マイナーダイアトニックコードを理解する		
11回	スケールの理解とトレーニング①		ペンタトニックスケールの理解1 メジャーペンタトニックスケールを理解する		
12回	スケールの理解とトレーニング②		ペンタトニックスケールの理解2 マイナーペンタトニックスケールを理解する		
13回	ケーデンスとベースライン		コード進行の理解と正確な演奏		
14回	フレーズ・リフトレーニング		ビートの感覚とフレーズの関係		
15回	楽曲アナライズ（分析）		メジャーペンタトニックスケールが使われたフレーズの理解、正確な演奏		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_a_Dr	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(ドラム専攻)	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要資料はプリントなど配布する				
担当教員	川口 昌二・下田 武男		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
スティックの握り方、スティックコントロールを習得する授業。8ビート、16ビート、シャッフルビートなど基本リズムで楽曲が出来上がっていることを知る。現場でドラマーとしてやっていく自信につながるのは、常に充実した基礎力と瞬時に応用に変えられる経験の豊富さによります。授業内で、常に発表会形式で、習得したことを講師、学生の前でプレイすること、自分のプレイするドラミングの分析、解説をさせる。フレーズを聞いている学生からもその場でフィードバックのコメントを受けられ、日々成長を感じる授業となっている。ドラミングの基礎テクニックをつけ、あらゆる種類の楽曲に対して対応できる力を2年で完成させる授業。					
到達目標					
自分の好きなパターンばかりではなく、さまざまなジャンルのフレーズを習得することを目標としている。苦手なリズムをなくし、個人レベルで様々なフィールを表現できるようにするには、日々の練習と出来上がった自分のドラムプレイの分析、そして、再構築。常に出来上がった自分のプレイに対して、分析と再構築の意識を植え付ける。プロの現場では、同じパターンでもさまざまな抑揚、雰囲気を要求される。その対応力を身につけさせ、音楽に対する意識を高める。					
教育方法等					
授業概要	グループによる授業であるが、個人個人の中でのレベルアップを目標にする。基礎的な部分が完成した者は、プラスアルファの課題を追加していく、基礎も不安定な者はテンポダウンして着実に体に入れる。				
注意点	ドラミングのテクニックの習得には特に力を入れる授業ではあるが、ドラムの採譜、読譜にも力を入れる。音楽現場では、楽譜が読めるかどうか、その先の仕事獲得率に大きく変わってくる。現場さながらに各授業毎に譜面を配布し、ドラミングする授業を行う。2年間で現場での対応力を上げていく。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ストローク、ペダルワークの基本からパターン演奏まで		レディポジションを理解してフォームを形成		
2回	4種のストロークをマスター		ダウン、アップ、タップ、フルでアクセントのコントロール		
3回	簡単なエイトビートの読譜と採譜		シンプルなパターンを叩き、記譜し、覚える。		
4回	ハイハット・コントロール		オープン・クローズ、ハーフオープン、ゴーストモーション		
5回	ダブルアクション（足の連打）		スライドステップ、ダンス・ステップを覚える		
6回	シャッフルフィールと3連符		跳ねたリズムと3連符フレーズの理解		
7回	グルーピング・フレーズ		3拍、1拍半、半拍半フレーズ		
8回	ダイナミクス・コントロール		ビーターのオン・オフ、オープン・リムショットなど		
9回	シンコペーション		8分、16分、3連符それぞれのシンコペーション		
10回	アウフタクト		不完全小節の理解		
11回	メトロノーム練習法		各音符の裏取り、2拍連、1拍めのみ等		
12回	表現力の強化		リバウンドストロークや装飾音		
13回	手足のコンビネーション		3ウェイ、4ウェイによるフレーズ		
14回	チャート・リーディング		曲の流れに沿ったドラミング		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_a_Gt	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(ギター専攻)	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	内田 充・篠崎保		実務経験の有無・職種	有・プロギタリスト	
学習目的					
この科目を受講する学生は、ギターを通じて様々なジャンルや演奏に触れ、音楽そのものに対する興味をより深めていきながら、その技術を学んでいくことで、常に自分だけのプレイスタイルを模索し続けて行く姿勢を学ぶ。					
到達目標					
基本的な演奏技術を身につけながら、プロギタリストとして必要な一般知識をトータルで学ぶと同時に、あらゆるジャンルの音楽を通して、より実践的な演奏スタイルを構築していく。自己の音楽的な目標に「柔軟な音楽性」をプラスして演奏到達度を高める。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、読譜、スケール、コードヴォイシング、イヤートレーニング、リズムトレーニングなどを相対的に学ぶ。メトロノームやバックイングトラック、予め用意した課題曲やマテリアル等を活用した実技レッスン。				
注意点	この授業では、理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	オリエンテーション		授業の説明、課題について、各自の目標設定など。		
2回	スケールトレーニング①		ペンタトニックスケールの紹介（メジャー、マイナー）		
3回	スケールトレーニング②		ペンタトニックスケールエチュード		
4回	スケールトレーニング③		ペンタトニックスケールを使ったアドリブ練習		
5回	スケールトレーニング④		ダイアトニックスケールの紹介、アイオニアンスケール		
6回	スケールトレーニング⑤		ドリアンスケール		
7回	スケールトレーニング⑥		アエオリアンスケール		
8回	スケールトレーニング⑦		ドミナント系スケール、ミクソリディアン		
9回	スケールトレーニング⑧		HP5		
10回	スケールトレーニング⑨		リディアンb7th		
11回	リズムトレーニング①		エチュード使用		
12回	リズムトレーニング②		エチュード使用		
13回	インプロビゼーション①		課題曲 『Isn't she lovely』		
14回	インプロビゼーション②		課題曲 『Sunny』		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_a_Key	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックカレッジ科	コース名	プレイヤーコース（キーボード専	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1			授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	杉山泰		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
この授業ではジャンル別にマッチングした演奏家を目指すべく右手・左手の独立からコードボイッシングなど多角的な演奏実習を行います。毎回の授業で鍵盤の基本練習である指ならしから行い、鍵盤に慣れていくところからしっかり指導していく。					
到達目標					
基本的な鍵盤演奏技術を身につけながら、鍵盤を「音楽ツール」として有機的活用できる能力を持つ。 自己の音楽的な目標に「柔軟な音楽性」をプラスして演奏到達度を高める。					
教育方法等					
授業概要	主にシンセパートの特訓。曲をリード譜を使用し構成・キー・リズム・ジャンルを理解することから実際に様々な年代のポップス・ヴォーカル曲の伴奏をピアノで実演するための指導を行う				
注意点	授業内容的に実技的要素が高い為、必ず復習と練習をしましょう。ひたすら常に弾き続けることにより習得が確実なものになります。遊び感覚のシュミレートで弾いているだけでも十分効果はあります。どんな音でも構いませんので、聞こえてきた音を徹底的に鍵盤で表現してみましょう。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	概要		鍵盤（キーボード）の基礎知識と基本練習の紹介		
2回	鍵盤の基礎知識		鍵盤でのシュミレーション紹介と練習		
3回	スケール練習1		キーボードの特訓1(スケール奏 右手): ひたすらスケール！！(ドレミファソラシド編)		
4回	スケール練習2		キーボードの特訓2(スケール奏 左手): ひたすらスケール！！(ドレミファソラシド編)		
5回	スケール練習3		キーボードの特訓3(スケール奏 右手): ひたすらスケール！！(クロマティック編)		
6回	スケール練習4		キーボードの特訓3(スケール奏 左手): ひたすらスケール！！(クロマティック編)		
7回	スケールテスト		見極めチェック 右手・左手・クロマティック		
8回	コードについて1		メジャートライアドの解説と理解		
9回	コードについて2		マイナートライアドの解説と理解		
10回	コードについて3		セブンスの解説と理解		
11回	コードについて4		add9thの付加 課題曲の中でのコードの付加		
12回	ベース・テクニック1		コードのルート演奏に慣れよう		
13回	ベース・テクニック2		コードのルート+5th（オルタネイト）の演奏に慣れよう		
14回	ベース・テクニック3		8ビートのバリエーション（Rock&Pops)		
15回	まとめ		指定されたコード進行でコード＆ベースで演奏セッション		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_b_Bs	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ベース専攻）	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要資料はプリントなど配布する				
担当教員	田中 亮輔		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
リードシートの読み方、臨時記号や調合などの楽譜を読む上での基礎知識を理解する。自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。 また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていく。アンサンブルを行うために必要な技術と知識を習得することが目的である。そのために必要な理論を理解することも重要な課題である。					
到達目標					
譜面をしっかりと読むと同時に、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。 ヘ音記号とト音記号の違いを理解し、ベースの役割を認識できるようにする。 同時にベースラインアレンジメントをできるようにし、楽曲全体像も把握したうえで演奏できるように技術を高めていく事を目標とする。					
教育方法等					
授業概要	課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。 基礎トレーニングを踏まえ、合理的な（スムーズな）運指を瞬時に判断でき実演できるようにトレーニングを行っていく。				
注意点	五線紙は必ず用意し、常にメモは取ること。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受けることはできない。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（１回～１５回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
１回	ヘ音記号について（１）		下第一線から上第一線まで		
２回	ヘ音記号について（２）		上第二間より高音域について		
３回	ヘ音記号について（３）		楽器上でのポジションと照らし合わせ把握する		
４回	音階とポジション（１）		楽器上での同音異フレットの把握（中低音域）		
５回	音階とポジション（２）		楽器上での同音異フレットの把握（高音域）		
６回	全音・二分音符・休符について（１）		音価、読み・書き方を知る		
７回	全音・二分音符・休符について（２）		実際に演奏し感覚を養う		
８回	四分・八分音符・休符について（１）		音価、読み・書き方を知る		
９回	四分・八分音符・休符について（２）		実際に演奏し感覚を養う		
１０回	十六分音符・休符について（１）		音価、読み・書き方を知る		
１１回	十六分音符・休符について（２）		実際に演奏し感覚を養う		
１２回	スラー・タイについて（１）		音価、読み・書き方を知る		
１３回	スラー・タイについて（２）		実際に演奏し感覚を養う		
１４回	シンコペーションについて（１）		音価、読み・書き方を知る		
１５回	シンコペーションについて（２）		実際に演奏し感覚を養う		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_b_Dr	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム専攻）	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	Stick Control・SYNCPATION等の海外教則本、プリント				
担当教員情報					
担当教員	麻生 祥一郎・藤本 健一		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
基本的な音符休符の読み。 配布されたリードシートや楽譜を読みながら演奏する。 楽曲を聴きながらコピーする。 またそれらが音楽的な表現で演奏出来る事を目的とします。					
到達目標					
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜し、パフォーマンスをできるように自身の音にしていくこと					
教育方法等					
授業概要	次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。 麻生、藤本、2班に分かれて実習。				
注意点	遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話してるとき等に無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス、レベルチェック等		リーディングの意義の理解、個々の実力の理解		
2回	五線、小節、拍子、拍		ドラム譜における左記の理解		
3回	反復記号、演奏順序		リードシート等を読むときの進み方を理解する		
4回	4分音符休符、8分音符休符 （1）		様々なテンポで叩き分ける。		
5回	4分音符休符、8分音符休符 （2）		リズムパターンやフレーズで解釈する		
6回	16分音符休符（1）		様々なテンポで叩き分ける		
7回	16分音符休符（2）		リズムパターンやフレーズで解釈する		
8回	3連符、6連符、2拍3連（1）		様々なテンポで叩き分ける		
9回	3連符、6連符、2拍3連（2）		リズムパターンやフレーズで解釈する		
10回	付点音符休符		各4分8分16分の理解		
11回	スラー、タイ等		読み方使い方の理解		
12回	シンコペーション（1）		読み方使い方の理解		
13回	シンコペーション（2）		フレーズ、テンポ指定して演奏		
14回	各音符休符複合		複合リズムの演奏		
15回	まとめ		前期まとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_b_Gt	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	楽譜、教材を講師が作成し配布し教材とする				
担当教員情報					
担当教員	鳥居隼/渡邊具義		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リピートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせるにより、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。					
到達目標					
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、3週の間に2曲を演奏できるようなカリキュラムになっている。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）、3週目全体アンサブル授業となります。1～2週目のパート別授業で、譜面読みを終了させ、一音一音、丁寧にプレイすることを主眼としている。全体アンサブル時には、譜面を読みながら自分のサウンドを出すことを目標としている。				
注意点	この授業では、全ての授業を出席しなければ、3週目のアンサンブル時に、合わせることができない。授業時間以外にも、仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの過程、自らの仕込みの過程と過程を重視する授業であり、欠席が続くと演奏ができない。欠席の多い学生は全体あわせに参加させない可能性もある。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	発表会形式でのテスト		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	課題曲①リーディング		各パートごと課題曲のリーディング		
2回	課題曲①楽器陣合わせ		楽器陣のみで曲の全体合わせ		
3回	課題曲①全体合わせ		Vo。と共に全体合わせ		
4回	課題曲①全体合わせ		男子、女子各1曲ずつ合わせ		
5回	課題曲②リーディング		楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上		
6回	課題曲②楽器陣合わせ		楽譜でのリーディング能力の的認		
7回	課題曲③リーディング		メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える		
8回	課題曲③楽器陣合わせ		機材の扱い方や、音作り等の解説		
9回	課題曲②全体合わせ		男子、女子各1曲ずつ合わせ		
10回	課題曲③全体合わせ		男子、女子各1曲ずつ合わせ		
11回	課題曲④、⑤リーディング		楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上		
12回	課題曲④、⑤楽器陣合わせ		楽譜でのリーディング能力の的認		
13回	課題曲④、⑤全体合わせ		男子、女子各1曲ずつ合わせ		
14回	前期試験発表会		課題曲の総復習 ステージパフォーマンス、リハーサルの実施		
15回	前期試験発表会		課題曲の総復習 ステージパフォーマンス発表		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_b_Key	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（キーボード）	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	金澤法皇		実務経験の有無・職種	有 音楽講師、鍵盤講師、鍵盤奏者	
学習目的					
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。と同時に、音楽においてだけでなく、実社会において全ての事象には学ぶことや、考えること、思考の必要性の重視も説いていく事を目的とします。					
到達目標					
この科目では、学生が鍵盤楽器の奏法を基礎から学び、プロとして必要な技術、曲づくりへの発展、様々なジャンルへのアレンジにおいて必要な技術などを教室で各々のキーボードを使って学び実践して行く事を目標とします。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏における技術、そして特に必要な読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ力を養うための技術も身につける。教室には各個人に1台のキーボードを用意し、実施する。				
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	実践形式での授業内で理解度を把握するので、実施しない。		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するためにたまに実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	楽曲ごとの読譜1		様々なジャンルの曲の基礎的な読譜の解説		
2回	楽曲ごとの読譜2		様々なジャンルの曲の読譜、ポップス、ロック中心		
3回	楽曲ごとの読譜3		様々なジャンルの曲の読譜、ソウル、R&B、ジャズ中心		
4回	7thコードのテンション1		7thコードのテンションの基礎解説		
5回	7thコードのテンション2		課題曲を使用して7thコードのテンションの実践、初見		
6回	テンションコード1		テンションコードの基礎解説		
7回	テンションコード2		課題曲を使用してテンションコードの実践、初見		
8回	楽曲ごとのテンションの使い分け1		様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ポップス、ロック中心		
9回	楽曲ごとのテンションの使い分け2		様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ソウル、R&B、ジャズ中心		
10回	ポピュラー音楽でのテンション感		主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け		
11回	ジャズ、R&B1		ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析 譜面使用して実践的に行う		
12回	ジャズ、R&B2		課題曲を使用してジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見		
13回	テンションコードの初見1		その他の楽器とアンサンブルしながら実際の現場に近い形での初見演奏		
14回	テンションコードの初見2		テンションコード全般の実演の総復習		
15回	まとめ		他楽器とアンサンブルにて総復習		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_c_Gt	
科目基礎情報					
開設学科	MU科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期	前期
対象年次	1年	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要な資料はプリントを配布します。				
担当教員情報					
担当教員	篠崎 保		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
様々な楽曲、コードチェンジに対し、素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになり、自身のパートアレンジも含め、幅広く音楽に生かしてゆく。現場ではあらゆるジャンル、コード進行に対しての対応力のある演奏力が求められる。自身が弾いているフレーズが何のスケールの何番目の音なのか、選択したスケールは正しいのかを意識できる音楽家の育成を目的としている。テクニック、知識、演奏スキルを身に着けることにより、自身のスタイルをプロデュースできるように育成していく。					
到達目標					
基礎的な楽曲を理解し、メジャー・マイナー・ペンタトニック・スケールを使ってフレーズを作り、表現力のあるソロを弾けるようになる。自身のプレイをしながら、コード進行、コードトーン、使用出来るペンタトニックスケールを常に頭の中で分析できるギタリストになることを目標としている。ペンタトニックスケールの音階を完璧に理解し、ペンタトニックスケール以外のスケールへの足掛かりを作る。					
教育方法等					
授業概要	課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習する。授業内では必ず読譜が必要になる。コード、スケールを理解する上で、ポジションで覚えることも重要だが、譜面をしっかりと読み込み、譜面を読める音楽家への成長を促す授業。				
注意点	必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取る。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習が必要となる。授業内では、反復練習のエクササイズ、譜面の読み方、譜面書き方、現場での譜面の扱い方などもレクチャーする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	マイナー・ペンタトニック・スケール		ペンタトニックスケールを弾き、反復練習		
2回	ボックス・ポジション		ペンタトニックスケールのボックスポジションの理解		
3回	表現力をつける		ギターの様々なテクニッテクを紹介、習得		
4回	ワイドレンジなペンタトニックスケール		ペンタトニックスケールのボックスポジションを複数理解する		
5回	ブルー・ノート		ペンタトニックスケールにブルートが入るスケールを覚える		
6回	ブルース進行内でのフレーズ		ブルースリックを複数紹介、キー別にフレーズ習得		
7回	ブルースについて		ブルース進行を理解し、習得する		
8回	メジャー・ペンタトニック・スケール		メジャーキーでのペンタトニックスケールを修得		
9回	メジャー、マイナー・ペンタを使い分ける		マイナーキーでのペンタトニックスケールを引き分ける		
10回	サブドミナント・コードに合う音使い		サブドミナント時のソロに使う音を理解、習得		
11回	マイナー・ペンタにメジャー・ペンタを混ぜて使う		アドリブ時にメジャー、マイナーペンタを織り交ぜる		
12回	M3rdとm7thを使ったバックイング		コード進行のバリエーションを理解、習得する		
13回	おさらい①		ペンタトニックスケールでアドリブソロを発表		
14回	おさらい②		コード進行を意識したアドリブソロを発表する		
15回	おさらい③		ペンタトニックスケール、ブルースノートを入れたアドリブソロを発表する		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_c_Dr	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ドラム	開設期	前期
対象年次	1年	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	スティックコントロール、シンコペーション、ADVANCED CONCEPT、JACK DE JOHNETTE、その他				
担当教員情報					
担当教員	堀越彰		実務経験の有無・職種	有・プレイヤー	
学習目的					
基本的な技術力と応用力を習得し、アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につける。演奏力の向上に一番大事な基礎力を重点的に行う。スティックの握り方、叩き方など、意識していなかったものを意識しながら、演奏することが大事になる。プロドラマーになる要素として、自分の演奏を細分化し、客観的に観る視点が大事になる。2年間を通じて、プロの現場で通用する、客観的な視点、アレンジする能力を習得する。					
到達目標					
スティックの握り方一つでサウンドは変化する。この授業では、ドラムの基礎を重点的に学び、自らのドラミングに即座に反映することを目的としている。1年次には、8ビート、16ビート、シャッフルビートの応用を習得し、毎回発表会形式で、自らのプレイを人前でプレイする機会をつくり、講師からフィードバックが戻る形式にしている。アクセントコントロールなど基礎中の基礎を時間をかけて行い、授業外の練習の重要性など、テクニック以外の考え方なども伝える。					
教育方法等					
授業概要	ドラムセットによる演奏の他に、ドラム練習台によるスティックコントロールに多くの時間を掛けます。ドラミングの基本は基礎。ドラムセットによるグルーヴとフィルの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチを発表会形式で講師、学生の前で披露する。				
注意点	出席率を重視する。個々の目標に積極的に向かっていき、定期的にその目標が近づいているのかどうかを客観的に精査する。個人練習の時間をしっかり取ることも重要である。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験結果による評価		
	小テスト	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	30%	授業態度による評価		
授業計画（１回～１５回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス①		自分の得意楽曲を講師に聞かせる。課題点などを見つける		
2回	ガイダンス②		課題点に対して、練習方法や留意点を明確にして今後のレッスンの指標を明確にする		
3回	ガイダンス③		スティックの握り方、ドラム椅子の座り方、ペダルの踏み方、ドラムセットのセッティング方法を知る		
4回	キックの連打		キックを連打するテクニックを習得する		
5回	シングル・ストローク①		ゆっくりなテンポから徐々にテンポアップ		
6回	シングル・ストローク②		自分の最速テンポで叩き続ける練習		
7回	オープン・リムショット		リムとヘッドをほぼ同時に叩く感覚を習得する		
8回	クローズド・リムショット		スティックをヘッドの上に寝かせてリムだけを叩く感覚を習得する		
9回	ハイハットのサウンド・コントロール		左足を踏むタイミング、オープンクローズの時の手の動きを習得する		
10回	シンバルの叩き方		クラッシュシンバル、ライドシンバル、スプラッシュシンバルの叩き方を習得する		
11回	シンバルのサウンドコントロール		クラッシュシンバル、ライドシンバル、スプラッシュシンバルのサウンドコントロールを習得する		
12回	アクセントコントロール①		4分音符、8分音符のアクセントコントロールを習得する		
13回	アクセントコントロール②		16分音符のアクセントコントロールを習得する		
14回	アクセントコントロール③		4分音符、8分音符、16分音符を組み合わせたパターンのアクセントコントロールを習得する		
15回	セット全体でのアクセント・コントロール		ドラムセット全体でアクセントコントロールを習得する		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_c_Bs	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ベース）	開設期	前期
対象年次	1年	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回必要に応じて資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	栗山宣幸		実務経験の有無・職種	有・音楽家	
学習目的					
この科目を受講する学生は、音楽活動を通じて今後の社会人として求められるコミュニケーション能力と、音楽家としての自己表現力を高めることによって自己鍛錬の必要性と喜びを学び、また他者との価値観の相違の認識と受容を繰り返すことで、幅の広い人間性と社会性を持つことの重要性を理解することが目的である。					
到達目標					
この科目では、自身の楽器をより専門的に表現力や判断力を高めることで創造的に表現できる力を身に付け、自己表現の喜びと他者との共感力を養うことと、日々の自己鍛錬の計画と実行の積み重ねによって得られるものがいかに重要であるかを理解することを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、毎週学生の理解度をヒヤリング・チェックしながら進める。他者の問題点が自己の問題と共通あるいは類似のことも多く、問題解決しながら進めていく。授業中の積極的発言も自己表現の一つと考え、疑問点や問題点をできる限りその場で解決しながら行っていく。				
注意点	この授業では、受講の態度や出席数はもちろん基本的なあいさつやマナーなど一般社会の一員としてあるべき行動を求める。授業内の問題点は必ず質問またはメモに残して解消していくこと。授業内で配布されたプリント等は常時持ってくること。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	期末時に総合評価する		
	小テスト	10%	授業時間内で実施		
	レポート	10%	授業時間内で実施		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内で実施		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ダイアトニックスケール		メジャースケールとナチュラルマイナースケールの具体的な違い		
2回	度数とダイアトニックコード		メジャースケールと度数の関係を理解する		
3回	メジャー＆マイナースケールの5種		12キーにおける平行調の理解		
4回	インターバルについて(1)		全音、半音、1音半の関係を指板上で理解する・効率的な運指(1)		
5回	インターバルについて(2)		全音、半音、1音半の関係を指板上で理解する・効率的な運指(2)		
6回	ペントニックスケール(1)		指板上の5種の形から見るメジャー＆マイナーペントニックスケールの理解		
7回	ペントニックスケール(2)		2弦ルート,3弦ルート,4弦ルートのマイナーペントニックを弾く		
8回	ペントニックスケール(3)		1本の弦で、Fmペントニックスケールを弾く(1～4各弦で)		
9回	インプロビゼーション(1)		コール＆レスポンス		
10回	インプロビゼーション(2)		コードトーン(Root、3rd、5th、7th)の機能とポジションの理解		
11回	インプロビゼーション(3)		ペントニックスケールと経過音		
12回	インプロビゼーション(4)		ペントニックスケールのチョーキングポイント		
13回	インプロビゼーション(5)		アップビート（前小節）からのアプローチ		
14回	グループ		ゴーストノートとグループ・ソロ		
15回	前期復習		前期課題曲 Sweet, Do It Now, I Just Wana Be With You, Leave Me Alone		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_c_Key	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（キーボード）	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	プリント配布				
担当教員情報					
担当教員	平下政志		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン/アレンジャー/コンポーザー	
学習目的					
音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認コード進行の確認様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する					
到達目標					
1年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にすること。Sweet (Rock) I Just Wanna Be With You (minor Blues) Do It Now (Major BluesLeave Me Alone (Funk) Affordable (Light Funk) Don't Look Down (Rock) Take Your Time (Bossa) Take Your Time (Bossa)Stop It (Swing)などの曲を課題曲とする					
教育方法等					
授業概要	各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4 リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。				
注意点	筆記用具と五線譜ノートを持参し、授業内の実践での内容を五線紙にメモしていく。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	60%	演奏を聴いての評価		
	平常点	40%	出席率、および授業への参加姿勢		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	音階1		メジャースケール（長音階）の確認		
2回	音階2		マイナースケール（短音階）の確認		
3回	調性		各調性の概念の把握		
4回	8ビート1		8ビート メジャーペンタトニックスケール		
5回	8ビート2		8ビート マイナーペンタトニックスケール		
6回	8ビート3		8ビート ペンタトニックスケールを使ったアドリブフレーズ		
7回	8ビート4		8ビート ペンタトニックスケールを使ったアドリブフレーズ課題曲を用いて実践		
8回	シャッフルビート1		シャッフルビート ブルーノート		
9回	シャッフルビート2		シャッフルビート クォータートーン		
10回	シャッフルビート3		シャッフルビート メジャーヘキサトニックスケール		
11回	シャッフルビート4		シャッフルビート マイナーヘキサトニックスケール		
12回	シャッフルビート5		シャッフルビート ヘキサトニックスケールを使ったアドリブフレーズ		
13回	シャッフルビート6		シャッフルビート ヘキサトニックスケールを使ったアドリブフレーズ課題曲を用いて実践		
14回	シャッフルビート7		シャッフルビートのコンピング		
15回	前期おさらい		課題曲を演奏		